

## **天地が消え去るまで**

マタイの福音書 5章 17-20 節

### **はじめに**

私がウェルカム・サンデーで説教をする時は、マタイの福音書 5-7 章に書かれている、イエス様が語られた「山上の説教」からお話ししています。

イエス様は、御自身に従う弟子たちや群衆に向かって、「**あなたがたは地の塩です」「あなたがたは世の光です**」と言われ、「**人々があなたがたの良い行いを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるように**」しなさいと言われました。

イエス様を信じ従う私たちクリスチャンは、「地の塩」「世の光」として、この地上で生かされています。ではどのようにして「地の塩」「世の光」としての役割を果たすのかということ、それは「良い行い」を人々に示し、人々が神様をあがめるようになることを通してです。

では「良い行い」とは、具体的にどのような行いでしょうか。それは、旧約聖書に書かれている「律法」に従うことです。私たちは、「律法」に従うことによって、人々に「良い行い」を示し、「律法」に従うことによって、人々が神様をあがめるようにし、「律法」に従うことによって、「地の塩」「世の光」として生きるのです。

### **1. イエスは旧約聖書を成就するために来た**

イエス様は、17 節でこう言われます。「**わたしが律法や預言者を廃棄するために来た、と思ってはなりません。廃棄するためではなく成就するために来たのです**」。

「律法や預言者」とは、旧約聖書のことです。旧約聖書にはおもに、神様が私たち人間に求める「律法」と、救い主に関する「預言」が書かれています。イエス様は、この「律法」と「預言」を「成就する」ために来られたのです。

「成就する」という言葉は、「満たす」とか「完全にする」という意味の言葉です。ここから教えられることは、イエス様は「旧約聖書」を、満たし、完全にする方として来られたということです。それは逆に言えば、旧約聖書は、旧約聖書だけでは未完成、不完全なものであるということです。旧約聖書は、イエス様によって完成し、完全なものとなるのです。

旧約聖書は、イエス様を指し示す書物です。旧約聖書に書かれている「預言」は、イエス様を指し示しています。旧約聖書に書かれている「律法」もイエス様を指し示し、イエス様によって完全に守り行われます。

旧約聖書に書かれている「律法」には、大きく分けて三種類あります。①道徳律法。これは神様が人間に求めている道徳に関する律法で、おもに「十戒」の中に要約して書かれてい

ます。②儀式律法。これは人間の罪の償いとしてささげられる動物のいけにえ・犠牲に関する律法です。③司法律法。これは神の民であるイスラエルの民に対する律法です。

イエス様は、この三種類の「律法」を満たし、完全なものとされました。

①道徳律法については、イエス様は罪のない方として、また私たち人間の代表として、神様が人間に求めている道徳に関する律法に、完全に従われました。これによってイエス様は、神様から私たちのための義と永遠のいのちを獲得されたのです。その証拠としてイエス様は、三日目によみがえられたのです。

②儀式律法については、イエス様は私たちの罪を償うために十字架で死なれました。旧約聖書に書かれている動物のいけにえ・犠牲は、イエス様の十字架を指し示していたのです。イエス様が十字架で私たちの罪を完全に償ってくださったので、もはや動物のいけにえ・犠牲をささげる必要はなくなりました。

③司法律法については、イエス様が弟子たちに「**あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい**」(マタイ 28:19)と言って、新しいイスラエルである「教会」が建て上げられ、神の民がイスラエルの民だけでなく、全世界に広げられたことによって、必要なくなりました。旧約のイスラエルの民は、イエス様によって新しく造られる新約の「教会」を指し示していたのです。

このようにイエス様は、「道徳律法」「儀式律法」「司法律法」をそれぞれ完成し、満たされたのです。旧約聖書は、イエス様を指し示す書物です。旧約聖書は、イエス様を通して解釈しなければなりません。旧約聖書は、イエス様によって実現した新しい時代を映し出していたのです。

私たちは、イエス様を深く知るためには、新約聖書だけでなく、旧約聖書も読まなければなりません。また新約聖書を深く理解するためには、旧約聖書も理解しなければなりません。イエス様は、「わたしが律法や預言者を廃棄するために来た、と思ってはなりません」と言われたように、私たちは旧約聖書を軽んじたり、無視したりしてはならないのです。

## **2. 律法学者やパリサイ人にまさる義**

イエス様は、20節でこう言われます。「**わたしはあなたがたに言います。あなたがたの義が、律法学者やパリサイ人の義にまさっていなければ、あなたがたは決して天の御国に入れません**」。

イエス様はここで、私たちがどうすれば天国に入れるかということを教えています。それは、「律法学者やパリサイ人の義にまさる」ことです。「義」というのは、神様の前の正しさと言えるかもしれません。神様の前の正しさは、「律法」によって諮られますから、「義」というのは、神様の前に「律法」を守っている、あるいは無罪であるということです。

「律法学者」というのは、律法の研究者・専門家のことです。人々に律法を教える立場の人です。「パリサイ人」というのは、ユダヤ教の一派で、律法を厳格に守るグループです。イエス様は彼らの形式的・表面的・偽善的な律法の守り方を批判されますが、彼らは週に二度断食したり、収入の十分の一を献げたりしていました。

では、イエス様が言われた、天国に入るための「律法学者やパリサイ人にまさる義」とは、  
どのようなものでしょうか。それは、週に二度以上断食するとか、収入の十分の一以上を献げ  
るといことでしょうか。

おそらくそうではありません。そうではなくて、律法学者やパリサイ人と「全く違う性質  
の義」のことを言っておられるのだと思います。律法学者やパリサイ人は、自分の力で律法  
を守り行うことによって得ようとする「義」でした。しかし天国に入るための「義」は、イ  
エス様を信じることによって得られる「義」です。それは、神様から恵みによって与えられ  
る「義」です。

イエス様は、律法を完全に守り行われました。神様から与えられた使命である「十字架の  
死」にまでも完全に従われました。私たち人間は、アダムとエバが罪を犯して以来、生まれ  
ながらに罪の性質を持っているので、完全に神様に従うことはできません。しかし、神の子  
であるイエス様は、私たち人間の代表として、神様に完全に従い、律法を完全に守られ、神  
様の前に「義」と「永遠のいのち」を獲得されたのです。そしてイエス様は、イエス様を信  
じる者に、御自身が獲得された「義」と「永遠のいのち」を恵みによって、分け与えてくだ  
さるのです。そうしてイエス様を信じる人は、恵みによって、神様の前に完全に律法を守っ  
ている者、無罪の者と認められるのです。これが、信仰によって神様から義と認められる「信  
仰義認」と呼ばれるものです。

「律法学者やパリサイ人にまさる義」とは、「イエス様を信じる信仰によって与えられる  
義」です。使徒パウロは、こう言っています。「人はだれも、律法を行なうことによって神の前  
に義と認められないからです。律法を通して生じるのは罪の意識です。しかし今や、律法とは関わり  
なく、律法と預言者たちの書によって証しされて、神の義が示されました。すなわち、イエス・キリスト  
を信じることによって、信じるすべての人に与えられる神の義です」(ローマ 3:20-22)。

誰も、自分の力で律法を守り行うことによって、神様の前に義と認められる人、天国に入  
れる人はいません。誰も、神様が求めるように完全に律法を守り行える人はいないからです。  
神の子であるイエス様以外に、そのような人はいません。私たちには、イエス様を信じる以  
外に、イエス様に頼る以外に、神様の前に義と認められる道、天国に入る道はないのです。

### **3. 天の御国で偉大な者と呼ばれるために**

では、律法を守り行うことによってではなく、イエス様を信じることによって、義と認め  
られ、天国に入ることが約束された人は、もう律法を守り行わなくてよいのでしょうか。

イエス様は 18-19 節でこう言われます。「まことに、あなたがたに言います。天地が消え去  
るまで、律法の一点一画も決して消え去ることはありません。すべてが実現します。ですから、これら  
の戒めの最も小さいものを一つでも破り、また破るように人々に教える者は、天の御国で最も小さ  
い者と呼ばれます。しかし、それを行ない、また行うように教える者は天の御国で偉大な者と呼ばれ  
ます」。

イエス様は、「天地が消え去るまで、律法の一点一画も消え去ることはない」と言ってお

られます。つまり世の終わりまで、律法は守り行うべきものなのです。

イエス様を信じる人は、誰でも天国に入ることができます。たとえ律法を破り、律法を破るように人々に教える人も天国に入ることができます。しかしそういう人は、たとえ天国に入れたとしても、「最も小さい者」なのです。逆にイエス様を信じて、生涯の最後まで律法を守り行い、律法を守り行うように人々に教える人は、天国の中でも「偉大な者」なのです。

ここから教えられることは、天国には「小さい者」も「偉大な者」もいるということ、またイエス様は、イエス様を信じ、天国が約束されている人に、生涯の最後まで律法を守り行ってほしいと願っておられるということです。

私たちが守り行うべき「律法」とは、「道徳律法」です。「儀式律法」や「司法律法」は、イエス様の十字架の贖いが成し遂げられ、神の民が全世界の教会へと広げられたことによって、守り行う必要がなくなりました。しかし、「十戒」に要約される「道徳律法」は、私たちが生涯の最後まで守り行うべきものです。「十戒」は、イスラエルの民がエジプトの奴隷状態から救われた後に与えられ、約束の地に向かう道のりで守り行うべき律法でした。同じように「十戒」は、イエス様を信じ救われた私たちが、約束の地である天国に向かう地上の生涯で守り行うべき律法なのです。

## **おわりに**

十戒に要約される「律法」の中心は、「愛」です。①神様を愛すること、②隣人を自分自身のように愛すること、です。律法は決して、不条理で堅苦しいものではありません。律法は私たちに、神様と人を愛することを求めているのです。「愛に生きること」が律法を守り行うことなのです。私たちを愛してくださる神様を愛し、神様が愛している人々を、私たちも愛していくことなのです。

そのように「愛に生きること」こそ、「良い行い」なのです。そして「愛に生きること」こそ、私たちが「地の塩」「世の光」として生きる道なのです。そして私たちが、「愛に生きる」時に、人々が神様をあがめるようになるのです。

今もなお私たちは、完全に律法を守り行うことはできません。完全に「愛に生きること」もできません。しかしイエス様が聖霊を通して私たちの内にいてくださり、生涯の最後まで私たちを変え続けてくださり、律法を守り行えるように、「愛に生きること」ができるようにしてくださるのです。

天におられる私たちの父なる神様。

私たちは、生まれながらに罪の性質を持ち、あなたの律法を完全に守り行えず、ただあなたの裁きと呪いの下に、滅びるほかない者でした。しかしそれでも、あなたは私たちを見捨てず、御子イエス様を遣わし、イエス様によって律法を成就し、イエス様を信じる信仰による「義」と「永遠のいのち」への道を開いてくださいました。

どうか恵みによって救われた私たちが、生涯の最後まで、あなたの「律法」を守り行い、

あなたと隣人への「愛に生きること」ができますように。どうか私たちを聖霊によって助け導き、少しでもイエス様に近づくことができますように。

この祈りを、私たちの救い主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。